

市区町村名	愛媛県八幡浜市	担当部署	総務企画部政策推進課
		電話番号	0894-22-5987
		所属メール	seisaku@city.yawatahama.lg.jp

## 1 取組事例名

「描こう、将来の自分像」地元企業・大学との連携によるふるさとキャリア教育の推進

## 2 取組期間

令和元年度～（継続中）

## 3 取組概要

人口減少対策の一環として、地元企業・大学と連携して、中学生向けの合同企業説明会の開催や、地域の社会人や大学生と将来について語り合う場を提供することで、地域（ふるさと）を知り愛着を持つ機会を創出するとともに、働くことに対する興味・関心や地元企業への理解を深め、将来的な地元への就職につなげる。また、ふるさとを離れたとしても八幡浜への愛着をもち続ける「関係人口」の創出を図る。

## 4 背景・目的

### 【背景】

八幡浜市では、1950年の72,882人をピークに人口減少が進み、2020年は31,987人と、70年で人口は約半分に減少した。さらに市の人口ビジョンでは、2060年には10,338人まで減少が進むと推計されており、人口減少対策が喫緊の課題となっている。

また、近年、教育現場では、子どもたち自身の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力を養うことを目指す「キャリア教育」という考え方が重要視されている。

そこで、八幡浜市では、平成30年度に移住定住の推進をテーマに活動した「地方創生推進プロジェクトチーム※」の提案を受け、愛媛大学のアドバイスを受けながら、「ふるさとキャリア教育」を令和元年度より実施している。

※地方創生に関する施策を効果的・効率的に推進すること。また、複雑化する地域課題について部局を超えて協議を行い、職員の意識醸成や視野の展開につなげることを目的とした部局横断のチーム

### 【目的】

「生きること」「学ぶこと」「働くこと」「ふるさとのよさ」を学び、シビックプライドの醸成を図ることで、豊かな人間性や社会性、主体性を育てるとともに、進学や就職でふるさとを離れたとしても、ふるさととの関係を持ち続ける人材の育成につなげることを目的としている。

## 5 取組の具体的内容

八幡浜市のふるさとキャリア教育事業としては、大きく2つの事業を実施している。

中学1年生を対象とした「中学生版合同企業説明会」は、地元企業について知ること、働くことへの興味関心を促すとともに、将来的な地元就職に繋げるもの。



中学2年生を対象とした「語り場」は、大学生や地元の人と地域や将来について語り合う場を設けることで、地域愛の醸成を促すとともに、将来のビジョンを考える機会を創出するもの。



このほか、過去と将来の人生を曲線であらわし人生について考える機会を設ける「ライフライン作成」といったプログラムなどを用意し、これまで各中学校で行ってきたキャリア教育をより充実させることで、年間を通して、自身の将来を見据える機会を提供している。

## 6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

### 【中学生向けの説明会】

これまで、高校生を対象とした就職説明会はあったが、採用目的ではなく、「地域の企業を知ること」を目的とした中学生向けの説明会は、あまり例がなかった。

また、説明する企業においては、自身の事業内容を中学生にわかりやすく説明する必要があり、若手社員の研修の場としても活用してもらうことができた。

### 【大学との連携】

市内に大学がなく、高校卒業後の若者が進学を機に当市を離れることが多い中、愛媛大学と連携することで、親や先生でもなく友達でもない、「いわばナナメの関係」である大学生と対話する機会を設けることができ、多様な観点からの新たな気づきを得るきっかけとなることを期待している。

講師役の大学生は、八幡浜市出身者や県外出身者、学部も文系理系問わず募集し、事前に大学において研修を実施することで事業効果を高めるとともに、大学生にとっても自身の進路を振り返る貴重な機会になっている。

中学校にとっても、過去に行ってきた進路指導という狭義の枠から、キャリア教育という大きな概念にまで考えを広げる貴重な機会となった。

### 【既存の取り組みとの連携】

これまで各学校に実施してきた職場体験（ジョブチャレンジ U-15 事業）と組み合わせることで、年間を通じたプログラムとしてより効果的な事業とした。

具体的には、1年次には「(親など)身近な人へのインタビュー」を行い働くことについて考える機会を創出。次に「ライフライン作成」を行い、自身の将来を想像してみる。その後、「中学生版合同企業説明会」を開催し、働くことへ興味を持ちながら、地域にも様々な選択肢があることを知ってもらう。

2年次には、例年、職場体験を行っており、これまでの取組を踏まえて勤労観、職業観の育成の更なる深化につなげる。その後、「語り場」により社会人や大学生と直接話すことで、より具体的に自身の将来を将来について考えるきっかけとする。

## 7 取組の効果・費用

市内の4中学校のうち、先行して事業を開始した八代中学校では、第14回キャリア教育優良学校として文部科学大臣表彰を受賞した。

事業の導入当初に愛媛大学と共同で行った効果測定において、「地域愛着に関するアンケート結果」から、地域愛着に関する項目については、全てプラスの数値となり、地域愛着について良い効果が得られることが分かった。

また、活動していくなかで、自己形成に関する記述が増え、より具体的に未来と過去を思い描くことができていたと考えられる。

さらに、1年次は八幡浜について、「知った、分かった」というような、あくまでも知識を得るだけの認識だったのに対し、2年次には、自分のこととして「考える」活動にまで落とし込んでいることが分かった。

本取組を継続することで、生徒が就職や進学したのち講師役として帰ってくることも期待され、地域とのつながりを持ち続けられる人材を1人でも多く育成していきたい。

事業費は、愛媛大学への学生派遣依頼、合同企業説明会の会場使用料、バス使用料として70万円程度。

## 8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦勞した点）

企業説明会では、企業側は直接採用につながるものではないため、本事業の目的や意義を丁寧に説明し、取組みへの理解、共感を得る必要がある。

学校側の協力が必要となるため、中学校が主体となって取り組めるよう、事前に校長会にて事業実施について理解を得るとともに、担当教諭との打ち合わせを行い、行ってもらう用務を明確に説明しておくことで、担当教諭の負担とならないよう調整を行っている。

## 9 今後の予定・構想

市が目指している「シビックプライド」の育成にはつながっているが、将来この取組がどうつながっていくかは、数年先にしか分からない。

人口減少対策に即効性のある取組ではないが、継続して取り組んでいくことで、進学や就職でふるさとを離れることがあっても、ふるさとと関係を持ち続けようとする生徒の育成に尽力していきたい。

## 10 他団体へのアドバイス

合同企業説明会においては、人手不足で人的余裕のない企業も多いが、企業側のメリットとして、社員の人材育成・研修の場にもなることをPRし、参加企業を募っていくことが効果的。

語り場においては、講師側に事前に趣旨を理解してもらい話す内容についてワークシートを提供することで、雑談で終わらないよう工夫している。

事業実施後は市の広報において活動報告を行っている。

## 11 取組について記載したホームページ

2024年4月市広報 特集記事

[https://www.city.yawatahama.ehime.jp/doc/2023122600017/file\\_contents/202404-1.pdf](https://www.city.yawatahama.ehime.jp/doc/2023122600017/file_contents/202404-1.pdf)